

# 大田圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成25年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H25目標	H25実績	達成率
共地-1	地域ぐるみの獣害対策推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野生動物による農林産物被害への対策に取り組まれているものの、依然として被害が発生している実態があり、獣害対策について当圏域の住民の関心も高い。</li> <li>・当プロジェクトにおいては「自分達の土地は自分達で守る」という理念の下、地域住民が主体性を持った獣害対策の取り組みを進めるための意識醸成を図っており、地域住民の意識が高まりつつある。</li> <li>・また、獣害対策に集落全体で自主的に取り組みたい意向を示す住民も徐々に増えてきており、これらの者を中心とした取り組みが進められてきている。</li> <li>・獣害を受けにくい品目や栽培方法についても理解が進み、導入する生産者等も多くなってきている。</li> </ul>	獣害対策(追い払い活動や侵入防止柵の設置等)に集落全体で自主的に取り組む集落数(集落)	14	14	100%
			獣害を受けにくい品目の栽培面積(ha)	21	21	100%
大田-1	「おおだ」で作り「おおだ」で食す地産地消推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の消費者へ新鮮な地元産野菜を供給する拠点である産直市場を活用し、市民へ地元産野菜の情報を提供すると共に、地元産野菜の生産体制の拡大、地域内消費拡大を目的に、様々な活動に取組んだ。</li> <li>・生産者組織と関係機関との連携を深め、計画栽培(作付誘導)に取組むと共に、産直市場を活用し、地域内消費拡大の取組を積極的に進めた。</li> <li>・また、学校給食での利用拡大に向け、生産者も加えた関係機関協議を定期的に行い、生産計画と利用計画の擦り合わせに取組んだ。</li> <li>・更に、1次加工の必要な農産物については、市内福祉施設との連携により、給食への供給を試験的に行った。</li> <li>・一方、生産組織、生産基盤の拡充では、県事業による生産施設整備に取組むと共に、大田市農業担い手支援センターが主催する「農援塾」の活動等から新規会員の確保に努め、生産量、販売額の拡大に取組んだ。</li> <li>・その結果、産直市場全体での当期までの販売額は前年度に比較して僅かではあるが増加したが、夏の高湿、局所的な豪雨の影響もあり目標数値は大きく下回った。</li> </ul>	産直市場での地元産品の販売金額(千円)	145,000	114,075	79%
			学校給食での大田市産農産物利用割合(品目)	19	50	263%
			産直出荷者協議会会員数(人・件)	260	266	102%
大田-2	石見銀山和牛ブランド生産流通プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良質牛の生産については、管内繁殖農家の全戸巡回が開始され、子牛の飼養管理改善や繁殖状況等、確認の実施中である。今後は繁殖牛の更新など管内の繁殖基盤を強化しつつ、肥育農家の意向も踏まえ指定交配等も考えていく必要がある。</li> <li>・石見銀山和牛販売については、石見銀山和牛のブランドたり得る特長づけが必要である。その上で販売戦略の構築が必要である。</li> <li>・また、購買者向けにシールとスタンプの製作を行い使用しているが、イベント等で消費者へPRするためのチラシやポスターも必要である。</li> <li>・地域循環型農業の推進については、コントラクター組織であるアグリスマイル所有機械の償却が2年後に終了する予定であり、その後の体制について今後協議が必要である。堆肥散布に関してはアルパFC合同会社が設立され、アグリスマイルと連携しながら耕畜連携の強化を図っていくこととしている。</li> <li>・課題は様々ある中で、2年ぶりとなる石見銀山和牛ブランド協議会が開催され、今後の方向性が示される等、少しずつではあるがブランド化に向けて前進している。</li> </ul>	子牛市場価格比(%)	97	97	100%
			石見銀山和牛販売頭数(頭/年)	15	13	87%
大田-3	持続可能な水田農業の確立と地域資源の活用プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手不在地域の増加やJAの統合などの諸条件の変化がきっかけになり、サポート経営体の検討が始まった。このことは、今後の邑智郡農業のあり方について大きな影響を与える可能性があると思われる。</li> <li>・本年度中に本PJにより各町におけるサポート経営体の方針決定をおこない、次年度以降に具体的計画を樹立する。</li> <li>・転作物に関しては、邑智郡の場合WCSが最も面積が多い。そのコントラクターであるアグリスサポートおーなんの法人化については、課題整理を行い、次年度の法人化を目指すことになった。</li> </ul>	サポート経営体(集落営農)育成数(カ所)	1	1	100%
			水田転作における戦略・振興作物等の生産面積(ha)	170	174	103%
			堆肥化施設の整備(カ所)	0	0	—

# 大田圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成25年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H25目標	H25実績	達成率
大田-4	地域アグリビジネスの推進による邑智郡農業の活性化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年5月に設立した悠邑アグリビジネスネットワークは、加入団体が31となり広がりを見せている。今年度は、3年間継続して行ったスタンプラリーの結果から、広島からのお客様の固定化をめざし、加入団体それぞれが、広島でのイベントへ積極的に参加している。</li> <li>6月28日に開催した「農業経営における顧客創造」をテーマにした研修会では、出席者の多くが顧客を作っていくことの重要性に共感を持っていた。アグリビジネスネットワークとしては、1月の商談会を見据えて、在広島県人会へのPR等行ってきたが、実需者とのマッチングの難しさも感じている。</li> <li>活動状況は、通信の定期発行(5回)によりネットワーク会員へ提供し、会員間での情報交換に役立っている。</li> <li>安全・安心なものづくりの推進については、邑南町 雲井の里がエコファーマーへ取り組みを開始した。</li> </ul>	直売所組織の販売額(千円)	350,000	325,124	93%
			トレサシステムの導入(機)	1	1	100%
大田-5	未来へ続く園芸産地育成プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>産地の基礎データ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年度事業から導入したトロ箱設備が、同25年度事業を終了すると、ハウス面積で約44%の導入率となる。近年は、天候不順(豪雨や猛暑など)により土耕において生産量に伸び悩みが生じる中、トロ箱導入が進むとともに、安定した生産量と販売高をあげることができている。</li> </ul> </li> <li>産地維持に向けた取り組み                             <ul style="list-style-type: none"> <li>24年度から、5名の就農希望者を長期体験ということで受け入れている。このうち1名は、受け入れ農家のハウスを賃借して12月に就農した。2名(夫婦)のうち1名(夫)は、11月に「認定就農者」の認定を受け、引き続き研修中。残る1名(妻)は青年就農給付金の給付を受け、夫とともに研修中。</li> <li>就農希望者の募集については、今年も県主催バスツアーに参加し、2名の産地視察を受け入れた。また、県外でのUIターン説明会等では、随時、産地情報を提供している。</li> <li>生産者の高齢化が進む中、農作業の労力補充を目的とする「サポーター制度」についてのアンケートを実施し、9割以上が制度の必要性を認める結果となった。</li> <li>事務局体制の強化については、人材の確保・育成の問題もあり、進んではいない状況。</li> </ul> </li> <li>生産・販売に向けた取り組み                             <ul style="list-style-type: none"> <li>例年どおり、生産者による技術的な目合わせや、バイヤーへの売り込みを目的とする産地研修会の開催、出荷を終えての生産・販売結果の検証を行うなど、産地の販売高向上に向けた取り組みを継続的に実施することができた。全国的な天候不順等の影響による、他産地苦戦の状況もあってか、温泉津としては過去最高の平均単価を上げることができた。</li> </ul> </li> </ul>	就農前研修受け入れ者数(人)	2	3 2	150% 100%
			認定就農者数(温泉津特産協会員の累計)(人)	0	1	100%
			農業生産量(メロン:60t→100t+裏作レタス:17t→20t)	98	88	90%
			農業販売額(千円)	47,000	43,865	93%